

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(5年計画の2年度目)

1. 研究課題

(和文) ト라우マ経験と記憶の組織化をめぐる領域横断的研究-物語からモニュメントまで

(英文) Trans-disciplinary Studies of Organizing Traumatic Experiences and Memories:
From Narratives to Monuments

2. 研究代表者

(氏名) 田中雅一

3. 研究期間

平成 22年 4月 から 平成 27年 3月 まで

4. 研究目的 (400字程度)

トラウマの原因は、幼児のころの虐待、家庭内暴力、学校でのいじめ、暴力行為、とくに戦争での経験、犯罪や事故、自然災害などである。本研究では、トラウマをより広い意味で苦悩 (suffering)や痛み (pain)とみなす。この苦悩にたいし人びとがどのような形で対峙し、克服しようとしてきたかについて考えてみたい。この過程をここでは組織化と表現する。トラウマは一般に心理学や精神医学が対象とする問題領域であるが、組織化という過程はこれらの領域にとどまるものではない。広く、カウンセリングを含む医療、芸術、宗教、司法、メディア、コミュニケーションなどの分野における研究と実践領域にまたがる。トラウマやPTSDなどの医療用語が、日常的に使われるようになって久しい。心理学や精神医学用語が普及していった理由は、わたしたちの世界が脱神学化してきたことを意味している。そのような状況でトラウマについてあえて考察することは、現代日本社会の分析にも貢献することになる。

5. 本年度の研究実施状況 (400字程度)

2年目は、11回の研究会を行った。研究発表は15名で、今年は特に前半に研究会メンバーではないゲスト・スピーカーを招聘した。後期からは研究発表に加えて、トラウマに関する重要文献であるジュディス・ハーマンの『心的外傷と回復』の会読も行った。4月11日 田中雅一、菅原和孝、4月25日 高木光太郎、浜田寿美男、5月9日 高橋正実、5月30日 三田牧、小田博志、6月6日 宮地尚子、6月20日 田中雅一、岡田浩樹、7月11日 渡辺文、田辺明生、10月31日 石井美保、11月14日 小池郁子、12月19日 窪田幸子、1月30日 萩原卓也の計15名が報告した。5月9日の高橋氏の回には本人制作による神風特攻隊についてのドキュメンタリー映画の上映も行った他、6月6日の回には宮地氏の著書『環状島=トラウマの地政学』についての合評会も行った。

6. 研究成果の概要（400字程度）

7. 共同研究会に関連した公表実績（出版、公開シンポジウム、学会分科会、電子媒体など）

特になし

8. 本年度の共同利用・共同研究の参加状況

区分	所属機関数	参加人数	延べ人数
学内	5	24 (9)	180 (72)
国立大学	5	10 (3)	76 (24)
公立大学	0	0	0
私立大学	7	7	56
大学共同利用機関法人	2	4	10
民間・独立行政法人等	0	0	0
外国の研究機関	0	0	0
(うち大学院生)		(12)	(96)
計	19	46 (12)	326

※当該年度の共同利用・共同研究参加者の所属機関数、参加人数、延べ人数を区分に応じて記入して下さい。

※「学内」の所属機関数は「学部数」等を記入して下さい。

※参加人数及び延べ人数の算出方法は、以下の例に基づき算出して下さい。

(例)

- ・1つの共同利用・共同研究課題で2人を共同研究員として3日間受け入れた（参加した場合）：参加人数2人、延べ人数6人

9. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

論文数	2
上記のうち国際学術誌に掲載された論文数	0

※研究者がファーストオーサーであること。学内の紀要等に発表されたものを除く

なお、高いインパクトファクターを持つ雑誌等に掲載された論文がある場合、その雑誌、掲載論文、そのうち主な論文の詳細等

掲載雑誌名等	論文名	発表者氏名